

◆夢を育み 明日が待たれる 魅力ある学校づくり◆

北教だより

茨城県県北教育事務所

令和7年1月6日(月)

第15号

電話 0294-34-0774

FAX 0294-32-0006

E-mail hokukyo@pref.ibaraki.lg.jp

今年度のまとめ(1, 2, 3月) ~進学・進級に向けて夢と希望を!~

県北教育事務所 所長 河原井信幸

年が明け、今年度も残すところ3か月となりました。この3か月はまとめの時期です。

1年間で児童生徒がどのような資質・能力を身に付けることができたか。まだ十分に備わっていない部分は、どのようなところか。教職員が一人一人の児童生徒をよく見取り、今年度末まで丁寧に指導・援助をしてくださるようお願いいたします。そして、児童生徒が、4月から夢と希望をもって進学・進級の新たなスタートができるように、1日1日を大切にご指導願います。

下の①、②は、児童生徒の育成を図っていただきたい内容です。

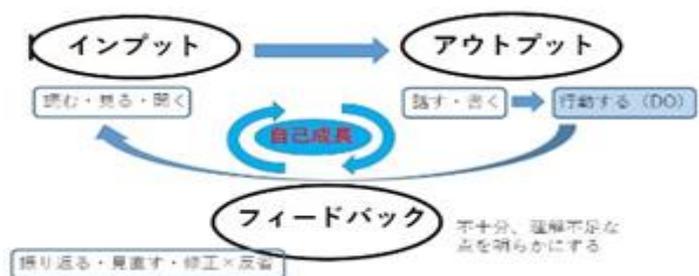
①非認知能力の育成……自分で自立・主体的に人生を切り ②探究的な学び (アウトプットサイクルを回す)

拓いていくための能力の獲得・向上が必要不可欠

○自分を高める力(意欲・向上力・自信・自尊感情・楽観性など)

○自分と向き合う力(自制心・忍耐力・回復力など)

○他者とつながる力(共感性・協調性・社交性・コミュニケーション力など)



いばらきサイエンスキッズ育成事業「小学校における理科専科教員等による授業公開」

高萩市立秋山小学校において、小学校における理科専科教員による授業公開が行われました。オンライン、参集を含めて100名近くの先生方に参観いただきました。自作教材を用いて、「れき、砂、どろは、どのようにしてしま模様の地層になったのだろうか。」という課題のもと、地層のしま模様の成因について考察する授業でした。理科の目標である「問題を科学的に解決していくための資質・能力の育成」に向けて、問題解決の過程を意識した大変参考になる授業公開でした。

本公開における優れた取組や児童の様子を紹介いたしますので、今後の授業づくりにお役立てください。

- 自作教材の開発など、計画段階で入念な教材研究がなされていた。
- 課題が疑問形で設定されており、問題解決のゴールを明確に示していた。
- 予想する内容を明確に示し、予想を基に実験で着目すべき点を明確に押さえていた。
- グループごとに自作実験器を準備して、全員が実験に参加し、問題解決に向けて意欲的に取り組んでいた。
- 課題の提示、実験の説明、結果の共有などの場面において効果的なICTの活用が見られた。
- 考察場面では、問題に正対したまとめにつながることを意識した指導がなされていた。
- 教師がコーディネートしながら、児童の言葉をつないで結論(まとめ)を導いていた。



理科専科教員発案 地層の作り方実験器



ICTの効果的活用場面



問題解決に向けてグループで実験に取り組む様子